

令和 5 年 6 月 5 日現在

機関番号：17701
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2017～2022
課題番号：17K15330
研究課題名（和文）BMUはタンザニア漁家の生計向上に寄与するか

研究課題名（英文）Do BMUs contribute to the livelihood improvement of the fishing households in Tanzania?

研究代表者

藤本 麻里子 (FUJIMOTO, Mariko)

鹿児島大学・農水産獣医学域水産学系・助教

研究者番号：10555105

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題においては、タンザニア連合共和国のインド洋沿岸域の漁村における人々の生計活動および住民組織の活動状況について調査を行った。研究期間中に2度の妊娠・出産を経験し、また2020年からはCOVID-19の世界的流行のため海外調査が困難であったことから、当初の予定通りには研究が進まなかった。

現地調査が困難な期間は、国内における文献調査および、2017年度から2019年度までに現地調査で収集したデータの分析および学会での発表、論文執筆などを進めた。2022年度には現地調査が再開できたので、その成果について学術誌への論文投稿の準備を進めている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、資源管理や生産者組織が未整備だったタンザニアのインド洋沿岸域に置いて、近年整備されつつあるBMUの活動実態を明らかにするもので、地域住民の生計向上および水産資源の持続的利用といった側面で意義がある。本研究期間中に新型コロナウイルスの世界的流行が発生したため、十分な現地調査を実施できなかったが、限られた回数の現地調査により、ザンジバルの漁村における住民組織の活動実態を調査し、国内学会で発表することができた。

研究成果の概要（英文）：In this research project, I investigated the local residents' livelihoods and the activities of the local organizations in a fishing village in the Indian Ocean coastal area of the United Republic of Tanzania. During the research period, I experienced pregnancy and childbirth twice, and overseas research was difficult due to the COVID-19 pandemic from 2020 to 2021, so the research did not proceed as originally planned. During the period when it was difficult to conduct a field survey, I conducted a literature survey in Japan, analyzed the data collected from the field survey from 2017 and 2019, presented at academic conferences, and wrote papers. Since the field survey was able to restart in 2022, I am preparing to submit a research paper on the results to an academic journal.

研究分野：地域研究

キーワード：タンザニア ザンジバル 漁村経済 生計維持 住民組織 水産加工業

1. 研究開始当初の背景

タンザニア連合共和国は本土部(タンガニイカ)と島嶼地域ザンジバルで異なる司法・立法・行政機構を持つ。タンガニイカにおいては、沿岸域の水産資源管理や漁業・水産業従事者で構成される住民組織である BMU (Beach Management Unit) の設置が法整備されている。ビクトリア湖沿岸、タンガニイカ湖沿岸およびインド洋沿岸部において、少しずつ BMU が設置されつつある (Luomba, 2014)。タンガニイカのコースト州に含まれるインド洋上に位置するマフィア島においては、本土と同じ法律や政策が適用されるため、BMU の設置が進められてきた。一方、インド洋島嶼地域で自治領であるザンジバルにおいては、BMU 設置に関する法整備がなされておらず、水産資源管理や漁業者・水産業従事者で構成される住民組織は存在しない。そこで、似通った生態・社会環境にあるマフィア島とザンジバル(ウングジャ島)の漁村において、漁業者および水産業従事者の経済活動を比較することで、BMU が水産資源管理および地域住民の生計活動にどのような役割を果たしているかを明らかにすることが可能であると考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、近年コンゴ民主共和国への輸出が拡大しているインド洋産のダガー(カタクチイワシ)の漁業、煮干し加工産業が盛んなマフィア島およびザンジバル(ウングジャ島)において、漁業者、水産加工業者等の経済活動を調査し、BMU はそれら漁村の経済活動にどのような役割を果たしているかを明らかにすることである。漁村においては地域住民による共同管理 (Co-Management) が重要であり、地域住民が資源管理に参加するためのインセンティブが成功の鍵を握っている。そこで、本研究では BMU が活動を実施しているマフィア島とザンジバルで人々の資源管理への参加状況および生計活動を調査し、漁村における住民組織の役割を明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

本研究においては、次の3つの研究課題を設定し、統治機構の異なる2つの島嶼地域マフィア島とザンジバル(ウングジャ島)の人々とダガー産業との関わりおよび、漁村の経済活動について調査を実施する。

(1) ダガー加工産業による地域住民の生計活動への影響の調査

インド洋沿の漁村において、近年最も重要な経済活動の1つとなっているダガー産業を通じて、地域住民がどのような経済活動を行っているのか基礎的な情報を収集する。そのため、以下の3点について情報収集を行う。

ダガーの仲買加工業者の経営収支の分析

ダガーの加工労働に従事する地域住民の生計活動の調査

漁村における水揚げ量および価格の調査

(2) 漁村における住民組織の活動実態に関する調査

マフィア島およびザンジバル(ウングジャ島)において、漁村の住民組織の活動実態を調査する。マフィア島においては活動を行っている BMU に関する情報収集を行う。ザンジバル(ウングジャ島)においては、近年急速に普及しているマイクロファイナンス組織の一つ VICOBA (Village Community Bank) の活動実態を調査対象とする。

漁村で活動する住民組織の数および参加者数に関する情報収集

住民組織の活動実態に関する情報収集

(3) マフィア島とザンジバルにおける漁業活動に関する法律の違いに関する文献調査

タンザニア本土とザンジバルで、漁業・水産業に関する法律や政策がどのように異なるかを明らかにするため、両地域の法律および政策文書を収集し、その違いを分析する。

タンザニア本土部の漁業管理に関する法律・政策文書の収集

ザンジバルにおける漁業管理に関する法律・政策文書の収集

両地域における漁業、水産加工業への課税および免許制度の違いに関する情報収集

4. 研究成果

本研究により、以下の3つの点が明らかとなった。

(1) ザンジバルの漁村におけるダガー産業の地域経済へのインパクト

調査地であるウングジャ北部州の漁村においては、地域住民の成人人口の50%以上がダガー産業から何らかの現金収入を得ていた。ダガー産業立地地域においては、地域住民に、ダガー

の水揚げ時の運搬作業、加工場における塩茹で作業、茹で上がったダガーの天日干し作業、完成した乾燥ダガーの頭を除去する作業、出荷時の梱包作業、梱包済みの乾燥ダガーをトラックに積み込む作業、などの多様な現金稼得機会が提供されていた。これらのうち、と は女性が主に従事し、～ は男性が主に従事していた。これらの成果は、英文の査読付き論文および、図書の1章で論文として発表した。

また、マフィア島においてもダガー産業の調査を行ったが、ウングジャ島では女性が主に従事していた上記の作業は、マフィア島では男性によって主に担われていた。マフィア島の漁村では、ザンジバル漁村よりも多種多様な水産加工業が行われており、女性はダガー以外の魚の干物加工や燻製加工などに従事していた。

(2) ウングジャ島における VICOBA の普及実態

調査地である M 村においては、近年急速に VICOBA の組織数が増加しており、加入者も増えていることがわかった。2022 年 8 月の時点で、M 村には少なくとも 14 の VICOBA が存在し、延べ 368 人が加入していた。それら VICOBA は、ダガーの仲買加工業を営む人が漁船からダガーを仕入れるために資金が足りない時に貸し付けたり、ダガーの運搬や塩茹で作業で現金収入を得ている女性たちが貯蓄したりといった形で、多くのダガー産業従事者が VICOBA を利用していることがわかった。2022 年度の漁業経済学会においてこれらの成果を口頭で発表した。

(3) 本土における法律運用の厳格化とザンジバルへの影響

2020 年 1 月にタンザニア本土政府は、インド洋沿岸部のダガー漁で使用される漁網を使用禁止とする措置を発令し、警察や軍を動員した大規模な網の没収・焼却を実施した。タンザニア本土においては Fisheries Act 2003 (以下、2003 年漁業法) によって漁業の管理が行われている。また、2003 年漁業法に加え、Fisheries Regulations, 2009 (以下、漁業規制 2009) において、網の目の規制などが設定されることが明記されていることが文献調査から明らかとなった。大規模な網の没収、実質的な禁漁措置により、タンザニア本土の業者が多数ザンジバルに拠点を移した。マフィア島の漁村に置いては、没収後に焼却処分された漁網の残骸などを多数観察した。

これらタンザニア本土側における禁漁措置のため、ザンジバルでは 2019 年 2 月以降、ダガーの水揚げ量が急増する事態となった。また、タンザニア本土側とザンジバルで、ダガー出荷時の課税額などが異なり、両地域のダガー産業に影響を及ぼしていることもわかった。これらの成果は、国際漁業学会大会における口頭発表および、当該学会誌へ論文を投稿して発表した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 藤本麻里子	4. 巻 18
2. 論文標題 タンザニア本土におけるダガー漁用の漁網に対する使用禁止措置とザンジバルのダガー産業への影響	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際漁業研究	6. 最初と最後の頁 21-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Mariko FUJIMOTO	4. 巻 vol.55
2. 論文標題 Economic Impact of the Dagaa Processing Industry on a Coastal Village in Zanzibar, Tanzania.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 African study monographs Supplementary issue	6. 最初と最後の頁 145-162
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14989/230168	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 藤本麻里子
2. 発表標題 ザンジバルの漁村におけるマイクロファイナンス組織の興隆とその意義
3. 学会等名 漁業経済学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 藤本麻里子
2. 発表標題 東アフリカの漁業事情と地域経済 ザンジバルの水産業を中心に
3. 学会等名 国際漁業学会研究会（オンライン）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤本麻里子
2. 発表標題 タンザニア本土における制度変更とザンジバルの ダガー産業への影響
3. 学会等名 国際漁業学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤本麻里子
2. 発表標題 ザンジバルのダガー産業に対する行政の管理体制の整備 : インフォーマルセクターからフォーマルセクターへ
3. 学会等名 地域漁業学会第60回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤本麻里子
2. 発表標題 ザンジバルの漁村におけるダガー漁獲量の年変動と地域経済への影響 2013年～2016年の3年間のデータより
3. 学会等名 日本アフリカ学会第54回学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤本麻里子
2. 発表標題 インド洋島嶼地域ザンジバルにおけるカタクチイワシ漁 輸出品としての干物加工産業の成長と地域経済の変容
3. 学会等名 第226回アフリカ地域研究会(日本アフリカ学会関西支部2017年度第1回例会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 藤本麻里子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 総合地球環境学研究所	5. 総ページ数 7
3. 書名 フィールドで出会う風と人と土5	

1. 著者名 藤本麻里子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 30
3. 書名 アフリカ漁民文化論 水域環境保全の視座（第5章を単独執筆）	

1. 著者名 藤本麻里子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 総合地球環境学研究所	5. 総ページ数 5
3. 書名 フィールドで出会う風と人と土4	

1. 著者名 藤本麻里子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 総合地球環境学研究所	5. 総ページ数 10
3. 書名 フィールドで出会う風と人と土	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------